

・永福寺跡 永福寺(ようふくじ)は源頼朝により建久3年(1192年)、奥州合戦で亡くなった弟・義経や藤原4代泰衡ら数万の霊を供養するために建てられた大寺院で、応永12年(1405年)の火事で焼失したといわれています。この場所で4月9日に平泉町の青木町長と中尊寺の関係者らが訪れ、「中尊寺ハス」の贈呈式が行われました。中尊寺ハスは1950年の中尊寺金色堂調査の際、頼朝勢に攻められて亡くなった藤原泰衡の首桶からハスの種約100粒が見つかり、研究者が98年開花に成功し、中尊寺の池に植えられているものです。

・頼朝の墓 現在、墓のあるあたりに、かつては頼朝の持仏堂があり、頼朝の死後は法華堂(ほっけどう)と呼ばれました。墓の層塔(そうとう)は安永8年(1779年)に島津重豪(しまずしげひで)により大御堂(おおみどう)から移されたものといわれ、国の史跡に指定されています。明治時代になり、それまでは一緒にまつられることも多かった神と仏を離す神仏分離(しんぶつぶんり)の政策により、明治5年(1872年)墓前に白旗神社が建立されました。

・鶴岡八幡宮 武家源氏、鎌倉武士の守護神。鎌倉初代将軍源頼朝ゆかりの神社です。元々は現在の数倍の規模を有した寺社で、正式名称は「鶴岡八幡宮寺」という寺でしたが、明治3年の廃仏毀釈では大塔を始め主だった仏堂は全て破壊されたそうです。現在の額は明治時代に作られたものだといえます。

6. さくら 北東北有数と云われるさくらの名所展勝地開園100周年にあたり鎌倉原産のさくらの苗木「桐ヶ谷」「普賢象」の2種類10本が「かまくらさくらの会」から贈呈される企画があります。早ければ10月に発送されるとのことです。「桐ヶ谷」は現在、極楽寺本堂の脇に植栽されています。(佐藤克英氏の企画書より引用)

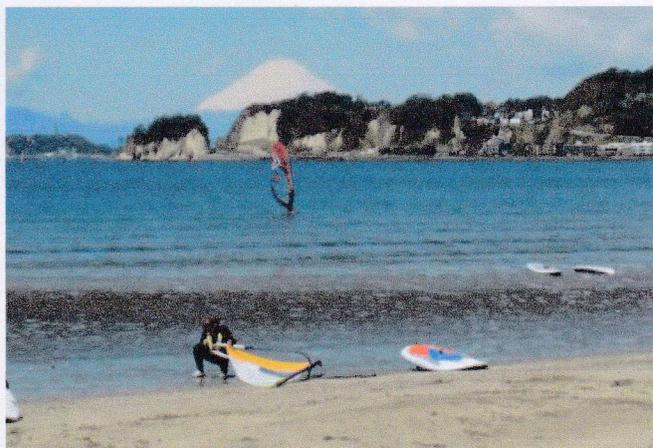
7. 笹竜胆 北上を代表する民俗芸能鬼剣舞が装束の胸当てに使用する笹竜胆の紋所が鎌倉市の市章であること等から鶴岡八幡宮や舞殿、由比が浜等で鬼剣舞の奉納公演を数団体が行っております。(佐藤克英氏の企画書より引用)



(光明寺山門)



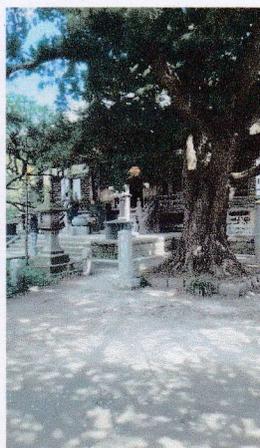
(和賀江島石碑)



(材木座海岸→由比ヶ浜海岸→極楽寺方面)



(極楽寺)



(宝戒寺)



(荏柄天神)



(中尊寺ハス贈呈式/永福寺跡)
以上